



# 香川大学教育学部 附属教職支援開発センター センターニュース

**No.3**



附属幼稚園訪問・保育参観（大学入門ゼミ／1年次）



## TOP NEWS

### 本年度第1回公開講演会を開催しました！

平成28年8月6日（土）、15時15分より、本学オーリースクエア多目的ホールにて、本年度第1回公開講演会を行いました。講演会には、幼・小・中・特別支援学校の教員、県内教育関係者、教育関係機関の関係者、本学教員、松楠会会員だけでなく、本学の院生・学生も25名の参加がありました。参加者は、センター教職員やシンポジスト等を合わせて94名であり、会場は満席状態となり、大盛況となりました。

講演は、「豊かな心を育む学校づくり」の演題で、高知大学大学院非常勤講師（前・高知大学教育学部准教授）田邊 重任 氏にお話をいただきました。資料に基づきながら、大変丁寧に分かりやすく、聴衆を魅了する内容でした。特に、荒れた学校からの建て直しに取り組んだ事例や、道徳の教科化に向けたポイントなどを、学校づくりという視点から、実践に基づきながらお話いただきました。学習指導要領の新旧比較においては、教科化に向けて「変わるところ」と「変わらないところ」を明確に示しながら解説をいただき、好評でした。特に、音楽を活用し自己を振り返る事例等、また、講師の田邊先生が関わってこられた学校教育、道徳教育での幅広いご経験から、大変広い視点と深い洞察力で整理し、講演していただきました。参加者からも、今回の企画に対して賞賛の声をいただき、有用な講演会となりました。

なお第1回講演会は、香川県教育委員会、香川県教育センター、本学教職大学院による連携事業「道徳教育の学びの場をつなぐ相互補完研修プログラムの開発～「かがわ道徳ラボ」を核として～」との共催として開催しました。

（文責：植田和也）



教育学部附属教職支援開発センター准教授  
講師 田邊 重任 氏



【特集】平成28年度 附属教職支援開発センター事業について	2
平成28年度 附属教職支援開発センター事業計画	3
第1期（5～7月）教育実践集中講座 実践報告	4
【PhotoNEWS】学部教員と附属坂出小学校教員との合同研究集会	4
附属坂出中学校 教育研究発表会 報告	5
教職支援開発センター活動報告／教育実践総合研究（第34・35号）原稿募集	6

# 平成28年度 附属教職支援開発センター事業について

附属教職支援開発センター センター長 七條 正典

附属教職支援開発センター（旧附属教育実践総合センター）は、平成27年4月より名称を変更し、実践的指導力の向上及び教職支援体制の充実のため、学部と附属学校園、香川県教育委員会等と連携・協働して、実地教育及び教職支援、教育開発の推進的役割を果たすことを目的として、新たな活動に取り組んでおります。

本センターは、実地教育推進部門、教職支援推進部門、教育開発推進部門の3つの部門から構成されています。まず、実地教育推進部門では、教育実習を軸に、1年次から4年次までの4か年を見通した実地教育を、実地教育委員会を中心に学部及び附属学校の先生方と連携協力し、学部生の実践的指導力の向上を目指して推進しています。

次に、教職支援推進部門では、教職志望学生への支援や現職教員への支援について、教職支援の充実を目指し、学生支援専門委員会を中心に特に人事交流の先生方と連携協力して推進しています。

そして、教育開発推進部門では、附属学校園や県市教育関係機関との連携・協働による教育開発に関する研究について、学部・附属共同研究機構を中心に学部及び附属の先生方、そして特に香川県教育センターと連携協力して推進しています。

なお、本センターの平成28年度のメンバーは、センター長1名、専任教員2名、兼任教員9名、教務職員1名、事務補佐員2名、さらに3名の客員教授で構成されています。

平成28年度に実施及び実施予定の各部門の主な活動は以下の通りです。

## 【実地教育推進部門】

- 1年次；＜学校理解＞「教職概論」「大学入門ゼミ」
- 2年次；＜子ども理解＞「教育実践プレ演習」
- 3年次；＜授業理解＞「教育実践演習」（事前・事後）
- 4年次；＜教職理解＞「教職実践演習」

※3年次・4年次には実地教育委員会を中心として教育実習が行われています。

## 【教職支援推進部門】

教職志望学生への支援；日常の支援・教採への支援・相談活動等  
現職教員への支援；研究交流会・講演会の開催・相談活動等

※公開講演会及び研究交流会に関しては、香川県教育センター及び高度教職実践専攻（教職大学院）との共催により、実施。

## 【教育開発推進部門】

研究活動の報告；『香川大学教育実践総合研究』の編集発行（年2回）

「教育実践集中講座資料集」の発行

※当教職センター客員教授が主に学生向けに実施する講座の資料をまとめたもの。

広報活動；「センターニュース」の発行（年2回）

その他；教師教育用映像教材の閲覧・貸出サービスの実施

教職センターのHP (<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~j-cen/>)にて、「センターニュース」のバックナンバーの閲覧が可能です。また、センター事業についての報告も掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

# 平成28年度 附属教職支援開発センター 事業計画

1. 実地教育に関する企画・運営；実地教育推進部門 <実地教育委員長(櫻井)、センター>
  - (1) 「教職概論」(「大学入門ゼミ」含む) (1年次) <教員養成課程主任(笠)、松下>
  - (2) 「教育実践プレ演習」 (2年次) <未来留担当(小方)、松下・七條>
  - (3) 「教育実践基礎演習(フレンドシップ事業)」 (2年次) <センター長、松下>  
※H29年度から廃止
  - (4) 「教育実践演習」(事前事後指導) (3年次) <センター長、山岸・佐藤>
  - (5) 「教職実践演習」(4年次) <実地教育委員長(櫻井)、山岸・高木・佐藤>

※「介護等実習」「ボランティア実習」「教育実習」(3・4年次)については、実地教育委員会を中心に実施
2. 教職支援に関する企画・運営；教職支援推進部門 <学生支援専門委員長(野崎)、センター>
  - (1) 教職志望学生への支援活動  
<学生支援専門委員長(野崎)、宮前(義)・齋藤・山本・植田・田崎・高木・佐藤・片岡・宮前(淳)>
    - 説明会、自主サークルへの支援、願書作成、卒業前直前対策実践講座等教採対応
    - 進路に関する相談、教職に関わる悩み等相談活動
  - (2) 現職教員への支援活動  
<センター長、山岸・宮前(義)・齋藤・山本・植田・田崎・高木・佐藤・片岡・宮前(淳)>
    - 公開講演会、卒業生や修了生のための研究交流会等指導力向上のための研究・研修
    - 学習指導や生徒指導等を含む教育相談活動
  - (3) 教育実践集中講座 <松下、大山・北堀・岡>
3. 教育開発に関する企画・運営；教育開発推進部門 <附属担当副学部長(野崎)、センター>
  - (1) 教材・資料の収集・管理・活用支援 <事務・松下>
    - 研究資料の収集・管理、教材・機器等の共同利用のための整備、ICT機器の活用支援、VODの閲覧貸出等
  - (2) 研究活動の報告等 <松下・山岸>
    - 「香川大学教育実践総合研究」の編集、教育実践集中講座資料集等
  - (3) 広報活動 <松下・事務>
    - ホームページ、センターニュース、パンフレット等
  - (4) 関係機関との連携 <附属担当副学部長(野崎)、七條・山岸>
    - 関係機関との連携による共同研究、附属学校園等との共同研究等
4. その他
  - (1) 学部・大学院関連授業科目及び卒論・修論指導

## ■平成28年度 教職支援開発センター スタッフ

	氏名	専門領域
専任教員	教授 山岸 知幸	教育方法
	准教授 松下 幸司	情報教育
センター長	教授 七條 正典	
客員教員	教授 大山 修	
	教授 北堀 宏	
	教授 岡 静子	
教務職員		松井 梨奈
事務補佐員		濱田 雅子
		松本 愛

	氏名	専門領域
兼任教員	教授 七條 正典	生徒指導
	教授 毛利 猛	教育学
	教授 櫻井 佳樹	教育学
	教授 宮前 義和	教育相談
	准教授 齋藤 嘉則	道德教育
	准教授 山本木ノ実	特別支援教育
	准教授 植田 和也	道德教育
	准教授 高木 愛	教職実践
	准教授 佐藤 盛子	教職実践

## 第1期(5~7月)教育実践集中講座 実践報告

### 「教師になる」とはどういうことか? ~「先生」と呼ばれる日への第一歩~

附属教職支援開発センター客員教授 大山 修・北堀 宏・岡 静子

第1期の集中講座では、〈教員採用試験に向けての準備講座であること〉〈教育法規等の各テーマについて、具体的な事例をもとにケーススタディを行うこと〉を趣旨として、計13回の講座を実施しました。

- |   |   |
|---|---|
| [第1回] 5月9日(月) 教職理解<br>「教職の魅力 教職とは」(大山)                      | [第7回] 6月13日(月) 生徒指導<br>「生徒理解を基盤とした生徒指導」(大山) |
| [第2回] 5月12日(木) 教育法規・教育施策<br>「ノウハウ集団面接」(岡)                   | [第8回] 7月4日(月) 生徒指導<br>「生徒指導ケーススタディ」(北堀)     |
| [第3回] 5月14日(土) 教育法規<br>「教育目標と教師に求められる力」(大山)<br>「教員になる①」(北堀) | [第9回] 7月4日(月) 道徳教育<br>「子どもの心を耕す道徳の授業」(大山)   |
| [第4回] 5月16日(月) 学級経営<br>「学級で育つ子どもたちのために」(岡)                  | [第10回] 7月4日(月) 子ども理解<br>「場面指導(ロールプレイ)」(岡)   |
| [第5回] 5月28日(土) 教育法規<br>「教育課程と学校評価」(大山)<br>「教員になる②」(北堀)      | [第11回] 7月11日(月) 子ども理解<br>「場面指導(ロールプレイ)」(岡)  |
| [第6回] 6月4日(土) 教育法規<br>「生きる力と学力」(大山)<br>「教員になる③」(北堀)         | [第12回] 7月25日(月) 子ども理解<br>「場面指導(ロールプレイ)」(岡)  |
|   | [第13回] 7月27日(水) 子ども理解<br>「授業づくりと子ども理解」(北堀)  |

1~4年生を対象とした講義を進める中で、特に4年生の真摯で積極的な受講態度には感心させられました。やはり教育実習において、責任と自覚を求められる子どもたちに対する指導・支援を経験したことが、大切なプロセスとして根付いていることが伺われる次第です。

講座では、教員として身に付けておくべき知識・見識をはじめとして、求められる資質能力を備えるための実質的な手助けができるように、①教育課題や文科省、県教委等の資料の提示、②演習、話し合い等の相互交流の場の設定、③学校での指導技術や児童生徒へのかかわり方などの例示、等に留意しながら学校現場における具体的な内容を中心に授業を進めました。

小中学校においては学習指導や生徒指導をはじめとする日々の指導に加えて、道徳の教科化や小学校での英語科の取り組み等、さまざまな改革と試みが進んでいます。受講生の皆さんには、将来の学校現場での生活に向けて、それぞれに応じた指導力とその土台となる理念、教職に対する自分なりの信念を培ってほしいと願っています。

### 【PhotoNEWS】学部教員と附属坂出小学校教員との合同研究集会



6月8日(水)に開催された本年度の合同研究集会では、まず、第3学年西組の体育科「ワン・ツー・フライト! 動きのこつを見つけよう」の授業が体育館で公開されました。視覚資料を用いた動きのイメージ化の支援が積極的に行われ、子どもたちはより遠くへ跳ぶことができるようになるための方法を、ペアで工夫しながら取り組んでいました。

(子どもたちが自分のフォームや本時の最終成果を動画記録・確認するため、当センターのタブレットPCもご活用いただきました。) 授業後の全体会では、本年度の研究テーマや視点についての説明・質疑応答の後、参加した香川大学教員・教職大学院院生と附属坂出小学校教員との間で、熱心な授業討議が行われました。(写真・文責: 松下幸司)

# 「学ぶこと」と「生きること」をつなぐ「ものがたり」 —個が響きあう共同体をめざして—

香川大学教育学部附属坂出中学校

## 1. 研究会の概要

本校では、「自立した学習者の育成」をめざし、生涯にわたって学び続ける意欲やその基盤となる力の育成を中心に実践研究を継続してきました。今期は、以下の3点に重点をおき「ものがたり」の授業づくりを行い、学ぶ意欲を育み自己形成を促すカリキュラム構想について提案しました。

- 個の文脈から新たな「ものがたり」が生まれる  
単元構成と問い
- 生徒がクリティカルに聴くことと問うことができる教師のかかわり方
- 生徒が他者の語りを聴いて語り直しができる教師のかかわり方

去る6月17日の教育研究発表会では、県内外および教育関係機関等より800名を超える参会者をお迎えし、24本の公開授業と研究協議会を中心に本校の研究実践をご覧いただくとともに、全国にその意義と歩みを発信することができました。研究の核となる「ものがたり」の授業とは、「時間構造を意識させる中で、多様な文脈をもった者同士が、教科のことばと生活のことばを行き来する語り合いで、題材に対する新たな気づきや、実感を伴う深い理解のある授業」です。この「ものがたり」の授業を基軸とした4層カリキュラムとともに、すなおに語り合える空間づくり、生徒の異学年による共同体づくり、教師の研究共同体づくり、認知的個性を活かした学習支援のあり方、気づきを促す環境づくりなど「個が響き合う共同体づくり」への提案も併せて行いました。

秋田先生には「学びの物語を保障する授業」という演題でご講演いただきました。授業において具体的に教材、教室のコミュニケーション、授業の展開を考え、教師がいかにかかわり、学び合いを深めていくか、それぞれの学びの物語の保障に向けた授業づくりについて、本校や全国の中学校での実践の具体例をあげながら分かりやすくご提案いただきました。

## 2. 成果と課題

各研究協議会やアンケートでは、参観者の方々から本校の研究実践や生徒たちの学ぶ姿に多くの賛同の声が寄せられました。「ものがたり」を授業レベルで発信している研究は全国でも例がなく、少しずつ前に踏み出せたものと考えます。特に、資質・能力の育成の中でも求められている「学びに向かう力 人間性」のきっかけとなる授業づくりだと考えています。今回の大会の課題ともしっかり向き合い、今後も、「ものがたり」の附坂中として本校の研究実践を全国に発信していきたいと思えます。

(文責：若林 教裕)



【衣服について自分の思いを語り合う様子】



【総合学習CANで研究内容を発表する様子】



【秋田先生のご講演の様子】

## 教職支援開発センター活動報告(2016/04~2016/09/20)

4月 7日 (木)	教育実践演習第一回全体指導	6月 8日 (水)	教職実践演習事前説明会
4月13日 (水)	特別支援教育実践演習全体指導	6月13日 (月)	教育実践集中講座(第一期7回目)
4月14日 (木)	教育実践演習第二回全体指導	6月21日 (火)	第三回 専任会議
4月19日 (火)	第一回 専任会議	6月22日 (水)	教育実践プレ演習第二回全体指導
4月20日 (水)	フレンドシップ事業オリエンテーション	6月23日 (木)	第二回 編集会議
4月21日 (木)	教育実践演習第三回全体指導	7月 4日 (月)	教育実践集中講座(第一期8回目)
4月27日 (水)	フレンドシップ事業事前周知会		教育実践集中講座(第一期9回目)
4月28日 (木)	教育実践演習第四回全体指導		教育実践集中講座(第一期10回目)
5月 9日 (月)	教育実践集中講座(第一期1回目)	7月 7日 (木)	第二回 運営委員会
	フレンドシップ事業事前周知会	7月11日 (月)	教育実践集中講座(第一期11回目)
5月12日 (木)	教育実践集中講座(第一期2回目)	7月14日 (木)	教育実践演習第六回全体指導
5月14日 (土)	教育実践集中講座(第一期3回目)	7月19日 (火)	第四回 専任会議
5月16日 (月)	教育実践集中講座(第一期4回目)	7月25日 (月)	教育実践集中講座(第一期12回目)
5月17日 (火)	第二回 専任会議	7月27日 (水)	教育実践プレ演習第三回全体指導
5月25日 (水)	教育実践プレ演習第一回全体指導		教育実践集中講座(第一期13回目)
5月26日 (木)	教育実践演習第五回全体指導	8月 6日 (土)	研究交流会・第一回公開講演会
5月28日 (土)	教育実践集中講座(第一期5回目)	9月13日 (火)	第五回 専任会議
6月 4日 (土)	教育実践集中講座(第一期6回目)	9月20日 (火)	第89回 国立大学教育実践研究関連センター協議会
6月 7日 (火)	第一回 編集会議		※台風のため中止

### 教育実践総合研究(第34・35号)原稿募集

『香川大学教育実践総合研究』第34号は**11月30日(水)**原稿受付締切、第35号は**平成29年5月31日(水)**原稿受付締切です。以下投稿要領をご参照の上、奮ってご投稿ください。

#### 香川大学教育実践総合研究 投稿要領

##### 1 (投稿の要領)

香川大学教育実践総合研究(以下「教育実践総合研究」という。)への投稿については、「香川大学教育学部研究報告規程」による他、この要領の定めるところによる。

##### 2 (投稿の内容)

教育実践総合研究は、教科教育、教育臨床など広く教育実践に関する独創的な研究論文・実践報告、資料(研究ノート、研究動向の紹介など)及び香川大学教育学部附属教職支援開発センターの活動報告などを掲載する。

##### 3 (投稿者)

教育実践総合研究に投稿できる者は、「香川大学教育学部研究報告規程」による他、香川大学教育実践総合研究編集会議(以下、「会議」という。)が特に依頼した者とする。

##### 4 (投稿原稿の提出方法)

投稿原稿は、完成原稿とし、原則として電子文書で作成し、印刷原稿2部と、その電子ファイルを会議に提出する。

##### 5 (投稿原稿の長さ)

投稿原稿の長さは、刷り上がり14頁(1頁は21字×42行×2段)以内を原則とし、偶数頁になることが望ましい。超過する場合は、会議の議を経て認めることがある。

##### 6 (刷り上がり1頁目の形式)

刷り上がり1頁目は、和・英文のタイトル・著者名・所属(所在地)、和文要旨(200字)及びキーワード(5語)を含むものとする。

##### 7 (投稿原稿の取り扱い)

投稿された論文等は査読を行い、会議においてその取り扱いを次のいずれかに決定する。

査読者については、会議において決定する。

(1) 採録

(2) 条件つき採録

(3) 返戻

##### 8 (校正)

校正は原則として3校までとし、投稿者において速やかに行うものとする。その際、印刷上の誤り以外の訂正、挿入、削除は原則として認めない。

附則

本要領は、平成16年4月1日から適用する。

附則

本要領は、平成17年12月14日から施行し、平成17年11月9日から適用する。

附則

本要領は、平成19年4月1日から施行する。

附則

本要領は、平成27年4月1日から施行する。

香川大学教育学部附属教職支援開発センターニュース  
(No. 3)

発行日 平成28年11月20日

代表者 七條 正典

教職のかゆいところに手が届く。

香川大学教育学部 附属教職支援開発センター

〒760-8522 香川県高松市幸町1-1

Tel.087-832-1683 Fax.087-832-1689

<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~j-cen/>



【お詫び】当初10月20日発行予定で準備をすすめておりましたが、編集の関係上、11月20日の発行とさせていただきます。お詫び申し上げます。